



嗟峨宏紀は6戦連続入賞を果たし、 苦境の中に粘り強さを見せる 千代勝正は不運なトラブルに泣く

アチーブメント全日本F3選手権第5戦&第6戦(第3ラウンド) 富士スピードウェイ(4.563km)



2010年、ル・ボーセモータースポーツが挑むレースカテゴリーのひとつ、全日本F3選手権の第3ラウンド／第5戦&第6戦が6月12日(土)、13日(日)の両日、静岡県・富士スピードウェイで開催された。

擁するドライバーは、Cクラスで「DENSO・ルボーセF308」を駆る嗟峨宏紀。そしてNクラスで「BPデザインルボーセF305」を駆る千代勝正である。

前回のもてぎラウンドではふたりとも連続入賞を果たし、特に千代は第3戦で初優勝も飾ることに。その結果、揃ってランキング2位をキープすることができ、チームの士気をいっそう高めてくれた。高速コースである富士でも、引き続きの活躍が期待された。

予選

6月12日(土) 天候/コース状況:曇り/ドライ

今回も金曜日から練習走行が行われ、その滑り出しは嗟峨、千代ともトップでの発進に。走行を重ねるごとく着実にタイムを短縮し、本戦に向けて確かな手応えをつかんでいた。

土曜日に行われた予選、その1回目はアウトラップに加え、もう1周をタイヤのウォームアップに充てて2周目から嗟峨、千代ともにアタックを開始。嗟峨はいきなり1分36秒台に入れて、タイムを刻み続けた後、6周目には35秒806に叩き込む。その結果、4番手から決勝レース第5戦に挑むこととなった。一方、千代はアタック開始から2周後に早々と37秒433をマーク。そこから2周クールダウンを入れ、終了間際に再び攻め立て5番手につけた。



インターバルで空力のセット変更を行って、予選の2回目は2台のマシンをコースに送り込むことに。1回目同様、タイヤの熱入れを入念に行った後、嗟峨はアタック開始とともに再びすぐに36秒台をマークする。そして1周のクールダウンを挟んだ後、再び36秒台の壁を打ち崩さんばかりの勢いで36秒008を記して引き続き4番手、2列目のグリッドを得ることとなった。千代は最初のアタックで37秒370をマーク。更に1周回毎にクールダウンを入れ、残り時間をフルに使って2度のアタックを行う。最終的に最初に記録したタイムをベストとし、5番手から決勝レース第6戦に挑む。

決勝レース第5戦

6月12日(土) 天候/コース状況:晴れ/ドライ

予選終了から約4時間。緊張感を程よく保った状態で、決勝レース第5戦が行われた。好スタートを切った嗟峨は、まずラファエル・スズキ (TOM'S) を抜いて3番手に浮上。そのままアレクサンドレ・インペラトリー (TODA RACING) の背後でプレッシャーをかけながら追走する。その後、2台に先行を許したものの、ミスのない走り終盤のチャンスを待つことに。路面がスリッピーながらも、得意な高速コーナーで徐々に差を詰めインペラトリーを射程圏に入れる。しかし、あと一歩のところまで逆転は許されなかったが、最後まで諦めぬ姿勢を周囲にアピールしつつ、5位でフィニッシュした。

一方、千代はスタートでまず、ポジションキープに成功。3周目にひとつ順位を落とすも、10周目には5番手に返り咲く。さらに銘苅翼 (AIM SPORTS) の背後につけ、1周ごと確実に差を詰めていった。そして14周目、ストレートでスリップストリームから抜け出して1コーナーでインを刺すが、互いのリヤタイヤが接触して、マシンは宙を舞いコースアウト。

このアクシデントによって順位を落としてしまったが、残りの2周を手負いのマシンでしっかり走り抜き、千代は8位でフィニッシュした。



決勝レース第6戦

6月13日(日) 天候/コース状況:曇り/ドライ

前回のもてぎラウンド同様、日曜日になると予報どおり天気は崩れていたが、またもや降りそうで降らない状態の中で決勝レース第6戦は行われた。注目のスタートは、上位陣で誰より完璧に嗟峨が決めていた。スムーズなクラッチミートの後、鋭く加速して2番手のスズキの横に並んで1コーナーに飛び込んでいく。続くココアコーナークーナーでは三つ巴の争いを展開するも、4番手に後退。しかし36秒台でコンスタントに周回を重ねて逆転のチャンスをうかがう。ところが、後続車両のクラッシュによりセーフティカーランでそれまで築いたマージンは失われ、リスタートで1台の先行を許してしまう。終盤になりタイヤにも厳しい状況だったが、残る力のすべてを絞り出し、徐々に差を詰めていく。

だが、抜き返すには周回があとわずかに足りなかった。路面とのマッチングが完全ではなく我慢のレースを強いられるものの、嗟峨はしっかり5位でゴールして、確実にポイントを積み重ねた。

一方、千代のマシンは第5戦のアクシデントによるダメージを修復するとともに、旋回スピードを高めるべくセッティングも大幅に変更された。スタートでこそ先行を許した佐藤公哉 (NDDP NOVA) を、すぐさま抜き返すことに成功。さらに3周目に先行する車両2台の接触があってセーフティカーが入るとともに、千代は3番手にまでポジションを上げる。3周後のリスタートで、さらに順位を上げてくれることが期待されたのだが……。

ところが、ストレートを駆け抜けていった千代のマシンに、ブレーキトラブルが発生。懸命のコントロールによってクラッシュは回避できたものの、レース復帰はならず。無念のリタイヤを喫することとなった。

今回の富士ラウンドは、うまく流れがつかめず、ふたりとも辛いレースとなってしまったが、次回も同じ富士が舞台。今回の悪しき流れを引きずらぬよう最善を尽くし、巻き返しをはかる。



Driver
嗟峨宏紀
Koki SAGA
COMMENT

予選の順位も思っていたような順位ではなかったのですが、決勝では非常に悔いの残る結果となってしまいました。良くない原因ははっきりしているのですが、それに対する改善策が見つけれられていないのが、最大の反省点です。次もまた富士でのレースとなりますが、新しいことにもトライして底上げをはかりたいと思っています。

Driver
千代勝正
Katsumasa CHIYO
COMMENT

今回の富士では、思わぬ苦戦を強いられました。ストレートスピードが伸びず、いろいろ試行錯誤をしましたが、2レースとも追い上げのレースとなり、第5戦ではラスト2周で4位の選手を抜きにいった時に接触してしまいました。第6戦ではセーフティカーが入った時点で3位に上がり、再スタートに賭けたのですが、思いもよらぬトラブルでストップしてしまいました。次回の富士で絶対に挽回するつもりです。

チーム監督
坪松唯夫
Tadao TSUBOMATSU
COMMENT

嗟峨は予選前日の練習走行では好調だったものの、予選に向けてトップスピードが落ちていたので、コーナーリングを犠牲にしてもストレートを速く走る必要に迫られた。決勝の合間も新たなセッティングを施し努力を試みたが表彰台獲得はならなかった。

千代にとって今回は両レースとも厳しい結果となってしまった。特にマシントラブルで落としてしまった第二レースはチームとしても残念でならないし、同じトラブルを出さぬよう気を引締めていくつもりだ。次戦も富士のレースとなるのでマシンのポテンシャルを上げて臨む。

第5戦 決勝

Cクラス			
順位	車番	ドライバー	予選順位
1	1	国本 雄資	PETRONAS TEAM TOM'S
2	12	関口 雄飛	ThreeBond Racing
3	36	Rafael Suzuki	PETRONAS TEAM TOM'S
4	2	Alexandre Inperatori	TODA RACING
5	62	嗟峨 宏紀	DENSO Team Le Beausset

Nクラス			
順位	車番	ドライバー	予選順位
1	8	小林 崇志	HFDP RACING
2	37	蒲生 尚弥	TOM'S SPIRIT
3	23	佐藤 公哉	TEAM NOVA
4	20	Gary Thompson	ACHIEVEMENT by KCMG
8	63	千代 勝正	DENSO Team Le Beausset

第6戦 決勝

Cクラス			
順位	車番	ドライバー	予選順位
1	1	国本 雄資	PETRONAS TEAM TOM'S
2	36	Rafael Suzuki	PETRONAS TEAM TOM'S
3	12	関口 雄飛	ThreeBond Racing
4	2	Alexandre Inperatori	TODA RACING
5	62	嗟峨 宏紀	DENSO Team Le Beausset

Nクラス			
順位	車番	ドライバー	予選順位
1	8	小林 崇志	HFDP RACING
2	37	蒲生 尚弥	TOM'S SPIRIT
3	18	銘苅 翼	AIM SPORTS
4	20	Gary Thompson	ACHIEVEMENT by KCMG
5	63	千代 勝正	DENSO Team Le Beausset

シリーズランキング

Cクラス			
順位	車番	ドライバー	ポイント
1	1	国本 雄資	71
2	12	関口 雄飛	29
3	36	Rafael Suzuki	25
4	62	嗟峨 宏紀	24
5	2	Alexandre Inperatori	24

Nクラス			
順位	車番	ドライバー	ポイント
1	8	小林 崇志	66
2	37	蒲生 尚弥	28
3	63	千代 勝正	27
4	23	佐藤 公哉	14
5	20	Gary Thompson	12

